

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	子どもが主役の地域を創る キッズレボリューション			
申請大学・高校等名	大学・高校等名	関西国際大学		
	活動グループ名	キッズレボリューション	参加学生等人数	33人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等名称	教育学部教育福祉学科		
	責任者氏名	太平 誠也	連絡先電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団体 及び代表者名	団体名	尼崎市小田のマナビヤ実行委員会		
	代表者氏名	井口 廣子	連絡先電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動目標	現代の育児の困難さは、家庭という閉じられた場で、親の手だけで子どもを育てなければならなくなっていることだと言われています。子育てをする親の孤立感や子育てに係る負担感の軽減を図り、安心して子育てができる環境をつくる必要があります。きめ細やかな子育て支援を行うためには、関係する諸機関がネットワークを構築して、その持てる力を結集することが必要です。我々の連携事業体が目指すのは、親が安心して子育てができる環境にいることによる安心感を抱いていただくことです。そのためには、地域全体が子育て世代を応援していることを示さなくてはなりません。子育て支援に関わる行政機関(地域振興センター)、社会福祉協議会、大学が連携協力し、身体活動を伴う遊びという具体的な活動を通して安心感を提供します。			
活動内容及び実績、評価	(活動内容及び実績) 2021 年 8月～2021 年 12 月にかけてはコロナ禍の状況を踏まえ、蔓延防止期間を避けての活動や他団体の支援をする活動であった。2021年8月10日には、尼崎市小田地域振興センターと協力し、小田南生涯学習プラザにおいて、イベントを行う予定であった。このイベントでは様々な遊びのブースを催し、スタンプラリーで巡回する方法を計画した。イベントコーナーは、①折り紙ブース②魚釣りブース、③フォトフレームブース、④紙コップでロケットブースであり、これらのブース以外にも幼児のためにお絵描きができる場所も計画した。当日は、コロナの影響で大学から参加の許可が下りなかったため、準備したものを届け、尼崎小田高校生の協力を得て、制作物を子どもたちに配布することができた。コロナ禍での新たな参加方法を見出すことができた。 3月5日に「親子で楽しくSDGs」フェアに参加し、ボッチャ体験を行う予定であったが、コロナ感染症拡大に伴い、イベントが中止となった。 2月26日に「おだらぶ雑談会」で地域の方々に活動の報告を行うとともに、小田地域の活性化について一緒に検討を行うなどの交流を行った。			




(別紙2)

	(評価) ・ 私たち学生が参加することを地域団体の皆様が好意的に受け止めてくださり、活動しやすいよう 様々な配慮をしてくださった。活動場所の提供、広報活動支援など様々な側面からの援助があり、 恵まれた環境であることが理解できた。私たち学生には何ができるのか、例えば、防災士の資格を取っている（取ろうとしている）が地域の防災活動に参加し、子どもたちに遊びを通して防災意識を育めないかなど課題が明確になってきた。 ・ 大学と尼崎市が連携協定していることは認識していたが、地域に根差した活動として身体活動を伴う遊びで表現できるということを知ることができた。大学で学んだ知識や技能を地域のイベントという具体的な形で表現でき、社会的有用感を感じることができた。施設長の方から、イベント企画及び施設の提供を提案していただいているが、具体化していくことが私たちの課題である。 ・ 地域の保護者の皆さん（参加者）が、私たち学生の活動に期待を寄せてくださっていることを「次は いつ」「また来るね」という言葉で感じることもできた。参加してくれた子どもたちの笑顔こそが私たちの活動の原動力であることを活動後の振り返りで確認することができた。 ・ 地域の会合に参加することで、地域の方々の子育て支援に関する取り組みを知ることができ、同時に大学に寄せる期待も知ることができた。
--	--

※報告書の内容及び掲載写真は、市HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。